



FortiGateから無線APなどを集中管理する 「Connected UTM」を採用し、ホテルの無線LANを刷新

スマートフォンやタブレット端末がビジネスマンの必需品となる中、無線LAN環境を刷新するホテルは少なくない。愛知県名古屋市熱田区でビジネスホテル「エクセルイン名古屋熱田」を運営する株式会社エクセルインでは、FortiGateから無線AP「FortiAP」、無線LANユーザを集中管理する「Connected UTM」を導入し、安定した無線ネットワークとネットワークの可視化を実現した。無線LANコントローラであるFortiGateは冗長化されており、コントローラ障害時にもサービス継続が可能だ。さらに、万一のAP障害時にはホテルスタッフが代替機に取替え、ダウンタイムを最小化する仕組みを取っている。



導入・構築のポイント

- (1) 無線LAN環境の安定稼働に向けてFortiGateを冗長化
- (2) 無線APなどのネットワークを集中管理するConnected UTM
- (3) FortiCloudにより、FortiGateおよび配下の無線LANのログを集中管理

株式会社エクセルイン

本社 愛知県名古屋市熱田区区馬2-4-17
開業 1999年12月
客室数 166室

ビジネスや観光に適した宿泊プランを用意。ワンランク上のホテルステイを提供するデザイナーズフロアプラン、ゆとりある空間のスタジオシングルルームなどのスタンダードプラン、女性限定の特典がついたレディースプランなどがある。
<http://www.excel-inn.com>



株式会社エクセルイン
代表取締役
荻谷 治輝氏

スマホなどIT環境の変化で ホテル内のネット環境を改善

エクセルイン名古屋熱田（以下、エクセルイン）は、三種の神器の一つである草薙神剣をまつる熱田神宮に程近い伝馬町にある。かつて東海道五十三次の41番目の宿場町、宮宿の本陣が置かれた場所に建つ、現代の旅籠だ。周辺には大手企業の工場・研究所をはじめ、学会やイベントなどが開催される国際会議場や国際展示場、サッカーの天皇杯などが行われる瑞穂運動場などの施設があり、「出張の定宿として利用するビジネスマンやスポーツ関係者も少なくありません」とエクセルイン代表取締役の荻谷治輝氏は話す。

荻谷氏はホテルのほか、ホテルやオフィスの清掃管理と設備機器の保守・点検整備を請け負う会社や、クラウドファンディング組織を運営する若手経営者だ。多彩な人脈を活かし、ホテルの一部をデザイナーズフロアに改修したり、ロビーを街づくりのコミュニティの場として活用したりするなど、ホテル事業の他にも幅広く事業を展開する。

ビジネスマンの三種の神器の一つ「IT」ツールといえば、ノートPCやスマートフォン、タブレット端末だろう。エクセルインでは主要な宿泊客であるビジネスマンを取り巻くIT環境の変化とともに館内のネットワーク環境を改善してきた歴史がある。出張時にホテル客室でメールをチェックするなどインターネット接続の要望が高まり、早くから客室に有線LANを整備。その後、スマートフォンやタブレット端末の普及・拡大に合せ、有線LANと併用する形で客室用の無線LAN環境を整備してきたが、様々な問題が持ち上がっていたという。

ホテルの経営課題となる 無線LANの安定稼働

エクセルインは11階建てで166の客室がある。各フロアに2台ずつ無線APを設置していたが、団体の宿泊客が一斉に無線LANにアクセスすると通信が不安定になる事象が発生していた。また、「スマートフォン、タブレット端末のOSのバージョンアップにより、機種やOSによって無線LANにつながりやすい事象が発生したのです」（荻谷氏）。OSが同じスマートフォンでも無線LANにつながるものとつながりにくいものがあったという。

フロントのスタッフは宿泊客から「無線LANにつながらない」との連絡を受けるものの、なぜつながらないのか原因がわからない。そして、スタッフは客室フロアの無線APの状況を確認するため、フロントの持ち場を離れるなど、「チェックイン、チェックアウト時間に無線LANのトラブルが重なると、フロント業務にも支障を来していました。お客様に安定した無線LAN環境を提供するとともに、スタッフの負荷を軽減するためにも、無線LANの刷新が経営課題となっていたのです」（荻谷氏）。

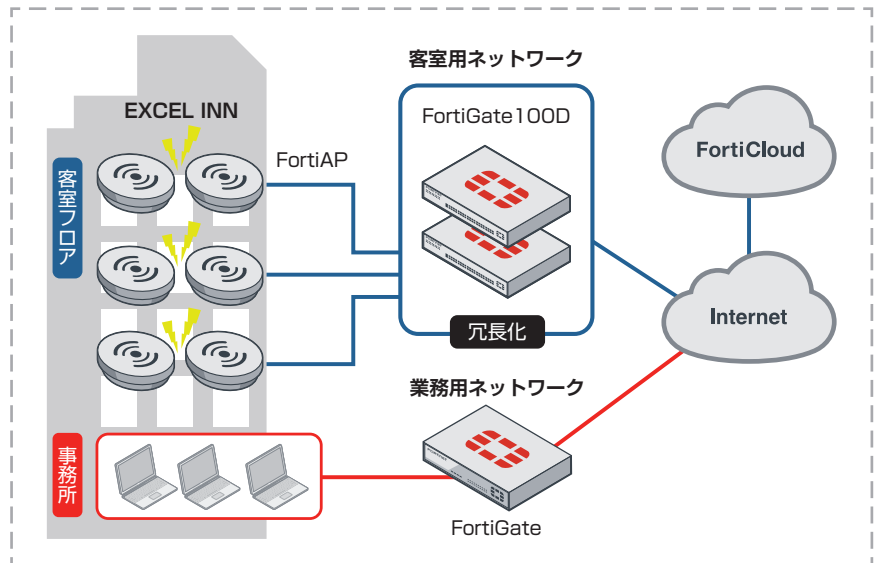
エクセルインでは新たな無線LAN導入に際し、ホテルの他の設備と同様に24時間・365日の安定稼働が可能で、万一の障害時にも容易に対処できること、宿泊客が増え無線APへのアクセスが集中してもコントロールできること、端末種別に応じたセキュリティを提供できること、コストパフォーマンスに優れていることなどを要件に様々な製品を比較、検討。そして、フォーティネットのUTM「FortiGate 100D」を2台、無線AP「FortiAP 221C」を21台導入している。

FortiGateから 無線APなどを集中管理する 「Connected UTM」

エクセルインでは、無線LANコントローラとして利用するFortiGateを2台導入して冗長化。マスター機の障害時には、スタンバイ機に自動的に切り替えることにより、継続的な使用が可能だ。マスター機の復旧後は再び、スタンバイ機から自動的に切り替える。また、無線APは予備機を1台用意し、無線APの故障時にホテルのスタッフが予備機と交換する。無線APの設定情報はFortiGateから自動的に送られるので、スタッフは特別なネットワーク知識は不要だ。

冗長化の狙いについて苅谷氏は「ITベンダーに故障した無線LANコントローラの修理を依頼するにしても、機器が復旧するまでの間、無線LANを利用できるようにバックアップの仕組みが必要でした」と説明する。さらにFortiGateネットワークとFortiAPの管理を容易にするFortiCloudを採用。無線LANのネットワークの状態、無線ユーザのトラフィック状況の把握やクラウド上でのログ管理などが行える環境を整備している。

エクセルインには情報システムの部署はなく、トップの苅谷氏がIT担当を兼務する。苅谷氏はホテル以外にも様々な仕事をしており、外出する機会も多い。「FortiCloudを利用すれば、社外でもホテルの無線LANの状況を把握できます。FortiGateとFortiAPの導入後、まだトラブルはありませんが、万一、無線LANが繋がらない場合、その原因がAPIにあるのか、他にあるのか原因を把握することで、リモートからでもスタッフに的確な指示を出すことも可能です」（苅谷氏）。そして、フォーティネットでは、UTM (FortiGate) からFortiAPなどの無線LANを含め、ネットワークの設定管理などを可能にする「Connected UTM」を打ち出している。エクセルインの無線



LAN環境はこのConnected UTMのコンセプトに沿ったものとなっている。

無線LAN環境の改善で 顧客と従業員の満足度が向上

エクセルインでは客室の無線電波状況の事前調査を経て、2016年12月からFortiGateとFortiAPの新たな無線LAN環境がスタートした。以前と同様に無線APIは各フロアの廊下に2台ずつ設置しているが、スマートフォンやタブレット端末についても、事前テストではOSや機種に関わらずきちんとつながったという。また、APから離れた客室について、以前はつながりにくかったというが、高性能なFortiGateとFortiAPの導入でそうした問題も解消。さらに2.4GHz帯と5GHz帯の電波を使い分けることにより、無線APへのアクセス集中を分散するなど、どの客室からも無線LANにつながりやすい環境を整えている。

FortiGateとFortiAPの導入後、宿泊客からのクレームは聞かれなくなったという。苅谷氏は「お客様のマイナス評価がなくなり、できて当たり前のができ

るようになりました」と強調する。宿泊を予約する旅行サイトなどにも「エクセルインの無線LANがつながりやすくなった」と宿泊客が経験をもとに書き込むなど、オンライン旅行代理店（OTA）の口コミで評判が上がっているという。

また、宿泊客の満足度向上に努めるとともに、無線LANの安定稼働でスタッフのストレスがなくなり、「本業に専念して仕事ができるようになるなど従業員のモチベーションと業務に対する満足度向上にも役立っています。またセキュアな無線LAN環境になり、お客様のスマートフォンやタブレットもセキュアな環境にすることができました。」と苅谷氏は導入効果を話す。

経営課題でもあった無線LANのつながりにくさが解消され、今後、客室の清掃作業の報告などにタブレット端末と無線LANの活用を検討するという。こうした業務利用では、より高いセキュリティが要求されることになる。FortiGateからネットワークをセキュアに集中管理し、可視化を実現するConnected UTMの役割が増すに違いない。

FORTINET

フォーティネットジャパン株式会社

〒106-0032
東京都港区六本木 7-7-7
Tri-Seven Roppongi 9 階
www.fortinet.co.jp/contact

お問い合わせ